

兵庫県生物学会 第45回大会報告

日時：平成3年5月25日（土）

場所：但馬地域地場産業振興センター

日程：

総会 司会 波野 竜二

- (1) 開会のことば 但馬支部長 朝倉 襄
 (2) 会長あいさつ 当津 隆
 (3) 来賓祝辞 豊岡市教育長 木下 秀峯
 (4) 兵庫県生物学会研究奨励賞授与
 ・山崎 喜彦氏 ムカシトンボの生態について
 ・東 良雄氏 陸産貝類について
 (5) 感謝状贈呈
 ・高橋 匡氏
 ・田中 修二氏

議事 議長 前田 常雄・藤本 光博

- (1) 平成2年度会務・事業報告
 ① 理事会 4.14 兵庫県学校厚生会館
 ② 会計監査 5.19 県立明石高校
 ③ 本部役員会 5.21 神戸野田高校
 ④ 第44回大会 5.26 姫路学院女子短期大学
 ⑤ 夏期研修会 8.17～18 笠形山
 8.23～25 神戸大学理学部付属
 臨海実験所
 ⑥ 第17回公開講座 11.17 姫路市立教育研究所
 「洞窟動物はどこからきたか」 森本義信氏
 ⑦ 理事会 12.23 兵庫県学校厚生会館
 ⑧ 平成3年度理事会 4.20

兵庫県学校厚生会館

- (2) 平成2年度会計決算報告・監査報告
 (3) 平成3年度企画案審議
 (4) 平成3年度予算案審議
 (5) 第46回大会（東播支部予定）

会員研究発表

山崎 喜彦氏 但馬におけるムカシトンボの分布と生態

東 良雄氏 陸産貝類（キセルガイ科）の生活史の研究

記念講演

松島興治郎氏（豊岡市教育委員会）

「コウノトリの現状について」

見学

コウノトリ飼育場

大会出席者名簿

朝倉 襄 東 良雄（川西緑台高）

荒柴 博一（姫路南高） 猪股 涼一（浪速短大）
 上田 尚志（豊岡高） 宇那木 隆（賢明女子学院）
 大須賀康郎（灘高） 大西 勲
 岡山 達也（但馬農業高） 加藤 直明（市立西宮高）
 金山 韶郎（豊岡南高） 上岡 雅和（明石高）
 河浪 繁（赤穂高） 甘中 照夫（福崎高）
 近藤昭一郎（夙川学院） 後藤 統一（西宮甲山高）
 沢口 宏（浜坂高） 洪野 竜二（神戸野田高）
 清水 淳（三原高） 菅村 定昌（豊岡聾学校）
 鈴木 讓（兵庫高） 高橋 匡（近代付属豊岡高）
 田中美喜朗（出石高） 田村 統（山崎高）
 当津 隆（姫路学院） 富川 哲夫（夙川学院）
 仲井 哲郎（柏原高） 西本 裕（小林聖心）
 西村 重喜（豊岡高） 西村 登
 浜田 史郎（神戸高） 林 美嗣（出石高）
 平畑 政幸（姫路学院） 藤本 義昭
 藤本 光博（近代付属豊岡高） 古田 昌（香寺高）
 前田 常雄（村岡高） 真野 育三（小野高）
 森垣 寿弘（出石高） 守田 治夫（姫路東高）
 山崎 喜彦（和山田中学校） 山田 隆（長田高）
 由良 甫（豊岡高） 横山 了爾（龍野高）
 吉田 靖（生野高） 渡辺 猛（龍野高）

第9回臨海実習報告

兵庫県生物学会・兵庫県高等学校教育研究会生物部会共催、兵庫県教育委員会後援、神戸大学理学部付属臨海実験所の協力で第9回臨海実習が8月1日から3日まで実施されました。

○ホヤの発生実習

ナツメボヤの成体から卵と精子を混ざらないように切り出し、卵は観察しやすいようにCa欠如海水でピベッティング。濾胞細胞、テスト細胞を取り除き、正常海水で受精させ発生を観察。筋肉細胞には、アセチルコリンエステラーゼ（AchE）が含まれているが、このAchEのmRNAが発生のどの時期にできるか、またタンパク質がどの時期にできるかを調べるため、アクチノマイシンD及びピューロマイシンでホヤ胚を処理。アクチノマイシンDはDNAからmRNAへの転写を阻害し、ピューロマイシンはmRNAから蛋白質への翻訳を阻害する。このため色々な時期の胚を2つの物質で処理すると、転写、翻訳の時期がわかる。

○海藻の光合成実習

プロダクトメーターを使って光合成量を測定し、光一光合成曲線を作成。材料はアナオサ、ツルツルとワカ

メを使い、6万ルクスの光から光量を減らし、暗黒まで順に測定。使用したプロダクトメーターは、榎本先生の友人の考案である。高校現場での購入があまり進まないため、実習の後、意見交換。話は高校教育のあり方、大学入試のあり方まで進み、深夜まで話はずんだ。

○プランクトンの採集と観察

船で明石海峡へ出てプランクトンの採集。実習も3日目になると疲れも出て、船酔いする人も出た。渦鞭毛藻、有鐘纖毛虫など色々なプランクトンが観察できた。

実習を指導していただいた榎本先生、西田先生、小林先生及びお世話になった実験所の技官の方々にこの紙面をお借りしてお礼を申し上げます。(西井)

参加者

検見川 功 (川西北陵高) 中田 浩嗣 (淡路育)
奈島 弘明 (青雲高) 藤原 正人 (北条高)
竹内千登勢 (福岡高) 向 恵子 (洲本実業高)
南雲 努 (県立西宮高) 後藤 統一 (西宮甲山高)
西井 隆 (香寺高)

講師

榎本 幸人 (神戸大学理学部)
西田 宏記 (神戸大学教養部)
小林 辰至 (神戸市立鷹取中学校)

事務局: 阪口 正樹 (市立西宮東高校)

平成3年度 夏季研修会報告

小城原生林 (村岡町) 観察会報告 (8月1, 2日)

8月1日は、平畑先生のアサギマダラ の卵の孵化および孵化後の生態観察スライドの説明を興味深く聞き、続いて筆者の持参したスライドの中から100コマほどを選び、但馬の山岳地形の特徴と代表的な植物を観ていた。時間つぶし程度に考えていたが、予想外の反響に、感謝した。特に、今春新聞紙上に出た村岡町の「銚子ヶ谷湿原」のカキツバタ群生、ショウキラン、氷ノ山のリュウキンカ群生、タマガワホトトギス、さらに但馬各地の溪谷案内など「但馬の自然」植物編を急ぎあして観ていただいた。翌日、「あのスライドのランはヤツシロランだとおもいますよ」と丁寧に教えていただけたのは筆者にとって大変うれしいことであった。

8月2日、8時に宿舎を出発し、射添溪谷沿いの急な坂道を登ると小さなループ橋にかかった。ここが和佐父集落である。雪の但馬で、ここの人達の生活は? ……と感心する間もなく車は坂道をどんどん登り、標高600m近くの峠に出た。ここでひと休憩し、これから行く小城集落と小城原生林の位置にういて簡単に説明した。小さな

谷間の道を10分余り進むと3戸の小さな集落「大切」に出た。ここから再び急坂を小城へと向かった。小城で車と別れ、各自荷物を背負って原生林へ向かった。神社境内にはトチ、アサダ、ケヤキ、イタヤカエデなどの大木が鬱蒼と茂っている。ゆっくり観察したいが後の予定があるので足を前に運ぶこととした。

比較的若い2次林の中を汗を拭きながら登る。山道沿いにヤネフキザサ、クロバナヒキオコシ、ノブキ、イタドリ、キンミズヒキが、頭上にはクブシの実やハクウンボクの白っぽい実がいっぱい。道沿いが湿っぽくなるにつれてクサアジサイ、ツリフネソウが。乾いたところにトキワイカリソウ、キクバヤマボクチが。どんどん登るにつれて、斜面のあちこちにアツミカンアオイ、オオイワカガミ、ムラサキマユミ、タジマタムラソウが出てきた。標高700m付近でヤマボウシ、ミヤマガマズミ、ナナカマド、ユキグニミツバツツジ、ヒメアオキが、林床にはゼンマイ、ユキザサ、ミゾソバ、ササノハスガ、イチヤクソウ、アキノキリンソウなどが見られる。高度を上げて小峠につく。目前に三川山のマイクロウエーブが見える。三川山の西斜面に数ヶ所原生林らしき森が見える。水上原生林である。他はほとんどスギ植林地である。その多くは人手不足のため手が入っていない。今後も放置されるのではないかと思うと林野行政のあり方に疑問を感じずにはいられない。峠で汗を拭いて、スギ植林地沿いに最後の登りにとりかかる。周囲にはニワトコ、シシウド、ヒキオコシ、サジガンクビソウなどが。左側の自然林はイヌシダ、ヤマナラシ、タムシバが。コシアブラの木にマツブサが巻きつき、実をいっぱいぶら下げている。ミズナラの古木にはヤドリギが半寄生している。ナツツバキの白い花やコムラサキの紅紫色の花が目にはいる。ミヤマナルコユリ、マルバマンサク、アズキナシも収集しようと追い掛けているうちに山頂に到着した。山頂から1m程度下がった山頂の一角が不思議なことに湿地となっている。どこに水脈があるのだろうか。誰も答える人はいない。湿地の広さは17m×10mだ。最も深い所は50~60cmある。湿地内の植物を見るとカサスゲ(?), アブラガヤ、ミズオトギリ、サンカクイ、ヒメシダである。数百年の歴史を持つこの原生林は小城集落を積雪による雪崩から守り続けてきた。人と森の共存する姿を感慨深く思うとき、自然に対する畏敬の念を感じずにはいられなかった。安易に便利さを求める現在の私達の生き方を問いただすよき機会であったように思えた。

時間の関係で原生林下を観察しながら下ることとした。直径1m余りあるブナの大木の林床にはクサアジサイ、ヤマソテツ、オオナルコユリ、モミジガザ、ホウチャクソウ、ハエドクソウ、ミヤマカタバミ、コタニワタリ、ヤマシャクヤク、サンカヨウ、カニコウモリ、エンレイソウなどが